

しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 http://www.suw.ac.jp

本学自慢の「キャリア支援」就職の「基本装備」 元ジャーナリストによる個人指導

◆文章読めばレベルがひと目 社会人の「完成」目指す

「キャリア支援Ⅰ（文章表現）」の CAREERは「職業、経歴」などの意味だが、ここでは「就職活動を支援するための講座」である。エントリーシートには志望理由を書かせるし、入社試験で小論文を課す社も多い。文章を読めば学生のレベルがひと目で分かるからだ。本講では就職試験のためばかりではなく、社会人としての「基本装備」の完成を狙いだ。



風景と「書くこ
心に進め
出された
テーマを
五十分で

六百字に仕上げる。前期は入門編として作文。テーマは「今朝の私」「連休」などのほか「手」「土」といった抽象的なものもある。いつも四百字ほど書いて時間切れの学生が何人かいる。

後期は小論文。「動物愛護」と出すとわが家のペットのことだけを書いて終わるのでは、小論文とは言えない。社会的分析・背景説明をした上で結論に導くのである。そのためには視野を広げることだ。新聞を読め、ニュースに触れよ、と教壇から繰り返し言う。

授業は二週がワンセット。クラスは三十人前後で、一週目は出した課題について書く。その中から名前を隠して三人分

取り出し、全員の数だけコピーをとって次週のテキストにする。それをみんな直しあう。同じ言葉の繰り返し、誤字、脱字、送り仮名の間違いといった基本的なことから、あいまいな表現、文章構成までチェックする。全員の文章に一枚ずつ赤字を入れ、どこが問題かを指摘して返却する。「あと五行」「Good」「良く書いています」など評価を入れる。たまには「Excellent」もある。

「整った簡潔な文章」を書くための技術も大事だ。「原稿用紙の使い方」「だかららした文章退治」など、手製のレジュメで十数回の講義をする。最終回は「エントリーシートの書き方」。ほかに「漢字演習」が十回。書き取り、読み方、四字熟語、反対語。授業時間に答え合わせをし、二、三週間後に小テスト。

◆ニュース解説にも力

広い知識を身につけ、文章力アップにつなげようと「マスコミ講座」を二週実施した。締め切り時間の早い静岡に来る東京三紙と静岡新聞の紙面を比較する。例えば東北地方で強い地震があった。東京紙は一面に七、八行突っ込んだだけだが、静岡新聞は通信社の配信記事をもとに現地の様子が詳しく入っている。震源地の地図もある。締め切りにししのぎを削る新聞社の姿を実感させる。VTRを見せ、静岡新聞・静岡放送の見学も実施した。

直近の「ニュース解説」もある。いま国内外で何が起きているのか、それがどう推移・展開していくのかを説明し質問する。多くの場合学生の反応はない。二

ユースにどう向き合わせるか、記者出身の二人の教員の課題だ。

私たちは簡潔で分かりやすく、文脈の整理された文章を書く訓練を積んできた。記者は夕刊、朝刊ごとに試験答案を出しているようなものである。現役時代に長短合わせて何万行、何千本の原稿を書いたことだろう。その経験をキャリアアプで生かしたい。

東京経済大学では、専任、非常勤の計十五人が文章表現を教えている。一クラスの定員は二十五人で二次以上以上の選択制。人気が高く抽選だという。桜美林大学は教員十八人で一クラスの定員は二十五人。一年生は必修、二年目も続けたければ選択。個人指導、手作り講座なので一クラスは二十五人以内が限度。それ以上では効果が上がらないというのが、私たちや両大学で教えている友人たちの実感だ。教師は記者出身がほとんどである。

◆文章力は確実に上達

授業をしての喜びはまったく書けなかった学生が、学年末には確実に上達していることだ。文章を通して学生と意思疎通ができることも嬉しい。

新鮮で若々しい文章に会えると、自分の青春時代を思い出し、赤ペンを握った手が踊りだす。



熱心な受講

そんな文章をもっとたくさん学生の書けるようになることが、私たちの喜びである。（高橋絃教授Ⅱ元共同通信社Ⅱ、河合修身講師Ⅱ元静岡新聞社Ⅱ）

本学における学生の自主活動

～現状と展望～

出席者：

- ① 学友会代議員会から
 - 代議員 伊藤 巨 (介護福祉学科二年)
 - 代議員 渡辺健太 (福祉心理学科一年)
 - 代表 山本怜奈 (福祉情報学科二年)
- ② 大学祭実行委員会2005年度委員長
大坪早由里 (福祉情報学科二年)
- ③ クラブ活動から
 - 「ウインドオーケストラ」
部長 山下靖貴 (福祉心理学科二年)
 - 「バトミントンクラブ」
部長 杉山侑奈 (介護福祉学科一年)
 - 副部長 金原千賀 (介護福祉学科一年)
- ④ 司会： 学生部長 森 孝宏教授



今回は、本学における学生の自主活動をテーマとして、学友会代議員会、大学祭実行委員会、クラブ活動についてご紹介いたします。本学の学生部長である森孝宏先生とともに、学生の皆さんがそれぞれの活動について熱く語ってくれました。

それぞれの活動について

森：では自己紹介もすんだところで本題にいきましょう。今回のテーマの自主活動というのは、しなければいけないものですが、積極的に関わって、自分たちで作っていけば、何か生きがいを感じたり出会いが生まれたりするものでもありません。そこで最初に、皆さんが実際にどのような活動をしているか、それぞれ紹介をしていただきたいと思えます。ではまず、終わらせたばかりの大学祭実行委員会からどうぞ。



森 孝宏
最初に、皆

大坪：第二回の今年は、来てくださる方に笑顔になってほしいという思いで「スマイリー」というテーマにしました。当日は二千人



大坪早由里
にぐらいの方にご来場いただき大盛況でした。今年

店の数も多く、お笑いなどの企画も学科ごとの展示も充実し、地域の方や高校生にも好評だったように思います。ですから、終了直後には私たち実行委員の充実感も高かったのですが、その後、出展してくださった施設の方から来年に向けて

の助言を頂いたりして、二週間ほど過ぎた今は反省点もいくつかあります。そういう点は次の実行委員会に伝えて、今年以上の、今年とは違った第三回を作ってほしいと思っています。また今年の実行委員のメンバーに学年や学科の偏りがあったので、ぜひ来年はいろいろな人に参加してほしいです。

森：次に学友会についてお願いします。

伊藤：学友会代議員会では学生の意見を反映してより良い大学をつくらせていくという活動を



伊藤 巨
中学や高校でいえば生徒会といったようなもの

です。学生の皆さんが学友会のメンバーですが、その代表である代議員は、各学科の各学年から二名ずつが選出されています。具体的な活動は月一回の会議です。大学裏手にある学友会室に集まって様々な話し合いをしています。例えば、今年の四月は新入生歓迎会の計画と実施、五月はサークルの登録とクラブへの昇格について、六月は学生部の方と学生食堂のアンケートの計画と実施、七月は学内の喫煙マナー向上についての対策、八月は花火大会の計画と実施、九月は学内の喫煙コーナーに黄色いテープを張ったり、喫煙スペースについてのアンケートを行いました。十月からは読んでくださった方も多くありますが、フリーペーパーを発行しています。



渡辺 健太
渡辺：フリーペーパーは十一月に第二号を発行しました。

今後も月一回に学生のためになるものを発行していきたいと思っています。今、僕たちが問題に思っているのは喫煙マナーです。まだマナーが徹底していないよなので。それ以外にも、僕たちだけでは気づかないこともあると思いますので、学生の皆さんは何かありましたら、食堂にある意見箱にご意見をお寄せください。自分たちの大学をより良いものにしていきたいと思っています。

森：そういえば学友会代議員の皆さんから要望のあった体育祭は、現在前向きに検討中です。これからも何かあればご意見をお待ちしています。ではクラブ代表の方、お願いします。

山下：僕たち「ウインドオーケストラ」



山下 靖貴

は吹奏楽のクラブです。最新の活動としては、先月十九日に、神奈川

県の洗足学園大学と合同で、精神障害者の方のサロン「トトロ」で演奏しました。このように、今後も福祉大学にある音楽クラブとして、福祉施設などで演奏活動をしていきたいです。そしてそれによって、その方たちを喜ばせるだけでなく、自分たちも楽しんでいきたい。学生の皆さんにも、ぜひ僕たちの演奏を聞きにきてほしいです。

杉山：バトミントンクラブでは毎週水曜と金曜の夜に練習しています。メンバー



杉山 侑奈

は現在二十三名ですが、メンバー登録していない方も一緒に練習に参

加しているのですが、とてもぎやかなのが特徴です。経験者が多いので、練習時は経験者が初心者に教えています。今年の県内の私学大会の成績は、団体が優勝ダブルスでは、優勝、二位、三位を占めることができました。他校と比べてレベルの高さを証明できたと思います。メンバーはとても仲が良く、積極的に向上心の強いクラブです。

金原：今後も雰囲気がとてもいいので現



金原 千賀

状を維持していきたいです。試合では自分の弱点が見えるので、経

験を積んでほしいと思っています。

【お互いに意見交換】

森：一通り紹介していただきましたがお互いに聞いていてどうですか？

山下：バトミントンクラブの成績は、す



山本 怜奈

ごいなど思いました。その他にも、それぞれ活発さが伝わってきました。

た。でも、今聞いたような皆さんのいろいろな活動は他の多くの学生に知られていないように思います。そこで、こういうことを学友会のフリーペーパーで紹介すればいいのかなと今思いました。

山下：杉山さんに聞きたいんですけど、試合のときに吹奏楽の僕たちが応援にいくことについてはどうですか？

杉山：うーん、バトミントンは個人競技なので、

森：バトミントンは室内競技なので、吹

奏楽の応援は無理かなと思うけれど、野球などはあったほうがいいでしょうね。大坪：私も中学高校時代に吹奏楽をやっていたので、「ウインドオーケストラ」の活動の様子も、山下さんの気持ちもよく分かります。今後さらに活動が展開していくよう願っています。

金原：「ウインドオーケストラ」では、

山下：先月の時は「明日があるさ」「空も飛べるはず」「チェリー」、それから

大学祭の店の名前にもなった「アルセナール」という曲などでした。他に、最近のポピュラーソングも演奏します。

森：他の大学との交流というのはどうですか？

山下：つてがなければ、いきなり交流することは難しいです。先月の合同演奏の場合は福祉心理学科の山城厚生先生のご紹介によるものです。

大坪：大学祭実行委員会では他大学との交流がありました。お互いに大学祭の準備に向けての情報交換や「学祭ナビ」といった合同企画の打ち合わせなどについて、月に一回会議に参加していました。

そこでは、大学祭のこと以外の話も色々出てくるようになって、個人的にも静岡英和さんなど他大学の学生さんたちと親しくなりました。

渡辺：現在、僕はクラブに参加してないけれど、昔はサッカーをしていました。だから運動というか自分の好きなことをしている、つらいことも忘れて熱中できたこと、あと試合の時に応援してもらったことが自分の力になったことを今までの話を聞いていて思い出しました。だから「ウインドオーケストラ」が野球やサッカーの応援にいくのは皆の力になると思うし、とても良いことだと思います。

またバトミントンクラブも試合にどんどん参加して、静岡福祉大の名を広めてほしい(笑)。

山本：クラブ活動のほかにも、自分たちで独自に活動している学生もいると思います。学友会としては、そういう学生たちのいろいろな活動に関する情報をもつと発信していくことが大切かなと思います。そうすることで、お互いに他の人の活動を知り合って、それがお互いに自分の力になっていくのかなと思います。とにかく、学生の皆さんに、もっとそれぞれ大学生活を楽しんでもらいたいです。



大坪：大学祭に関しては、今年は積極的に参加してくれる人と最後まで参加してくれない人に分かれてしまったのが残念でした。欲張りですけど、私としては年に一度の大学祭ですし、全員の学生に何かしら参加してほしいです。どうしたら関心の薄い学生にも参加してもらえるかどうかやって皆を惹きつけられるような大学祭をつくっていくか、それが今後の課題でしょうか。

森：それではこの辺で。今日は輝いている皆さんの様子を感じられて楽しかったです。

第2回 静福祭

テーマは「SMILEY」

十一月十三日(日)、第二回静福祭が開催されました。晩秋のやわらかな日差しの中、紅葉に彩られたキャンパスは、背中に黄色で「SMILEY」と書かれた黒色の大学祭Tシャツを着た学生や教職員、そして大勢の来場者で賑わいました。

大学の正門を入ると、まず見えてくるのが静福祭本部のテントです。実行委員長大坪早由里さん(福祉情報二年)を中心に静福祭の準備を進めてきた実行委員たちが、「静福祭は笑顔の集い」をスローガンに、来場者を笑顔で迎えています。

今年も本学学生有志が、学生特派員として写真撮影を含めて取材を行いました。学生の目を通した静福祭の一日を報告いたします。

一・地域全体がキャンパス

今年も地域の皆様がさまざまなイベントに参加して下さいました。社会福祉法人の「ハルモニア」はパンの販売、「暁」はクッキーの販売、中部自動車学校はフライドポテトの販売など、どれも美味しいと好評で、閉会をまたずに売り切れてしまいました。

昨年に引き続き、焼津市役所経済部深層水課のご協力により、「駿河湾深層水」のパネル展示や試飲、深層水を使ったコーヒーや紅茶の販売が実現しました。知っているようで知らなかった深層水の魅力に触れることができました。焼津商工会議所からは女性会の紹介がありました。

女性会では、タラソ施設「アクアスやいづ」を中心とした観光マップを作成しています。この観光マップで焼津市をもっと楽しむことができると思います。地域の活動を知るよい機会を与えていただきました。



体験型ラボラソタラ

また、「アクアスやいづ」のご好意により、海洋深層水を使ったタラソセラピーを体験できました。海藻をつぶして液体にしたタラソパックを右手の甲に塗り、五分ほどして紙のようにはがせるようになるまで乾かします。はがした後は肌が若返ったような感じがしました。老いも若きも女性も男性も、体験を楽しんでいました。「アクアスやいづ」に行つて試したいと思つた人も多いので・・・。

中庭は、緋毛氈を敷いた縁台に男子学生が五、六人、背筋を伸ばして腰かけています。



お茶の心を!

精神障害者家族会の「焼津心愛会」の皆様によるお茶席です。作法を教えてくださいながら、運ばれてきた和菓子とお抹茶を神妙な顔でいただきました。恒例のバザーは、今年も大盛況でした。学生や教職員、地域の皆様にご協力いただいた商品は、シーツやお皿、洗剤類の

日常生活品、コーヒーやかつお節といった食品、可愛らしい子供向けの文房具など多種多様でした。午前十一時開店予定でしたが、十五分前には二〇四教室の前に長蛇の列ができるほど。「大学祭に来たからには、バザーを見ていかないとね。」とお客様。主催者からは「売上を含めた学園祭の収益金の一部を福祉施設に寄付させていただきますました。ご協力ありがとうございました。来年もよりいっそう充実したバザーを提供したいと思います。」という感謝の言葉。来年への意欲を窺うことができました。

二・しっかりと学んだ日頃の成果

介護福祉学科は、介護実習室を使って、日頃学んでいる食事介助やシーツ交換などの介護技術を紹介しました。食事介助ではとろみをつけたりごジュースの試飲を行っていました。試飲された方の感想は「さほど抵抗はない」「変わったのど越し」など。一気に入つていかない分、むせることが少なくなるようです。車椅子体験や高齢者疑似体験はなかなか体験できないので、多くの方が興味を示されていました。



高齢者疑似体験の装具をつけています

福祉心理学科と福祉情報学科は、それぞれの学科の特色あふれる学科企画を行いました。福祉心理学科は、授業で学んだ錯視の体験や事前に行つた喫煙アンケートの調査結果を展示しました。錯視絵を見な



説明にも熱が入ります

がら「どこに犬がいるの?」と首を傾けながら一緒に来た人と楽しそうに考える人、学生に熱心になぞねる人、活気に満ちた会話が弾



今日のバイオリズムはどう?

福祉情報学科は、情報処理の科目で学んだプログラミングの知識を活用して作成したバイオリズム診断や白内障めがねを作るコーナー、ユニバーサルデザインについての展示を行いました。無料バイオリズム診断は人気があり、「身体は不調だけど、感情も知性も絶好調だつて!」と診断結果に一喜一憂していました。両学科ともに、日頃の成果を存分に発揮していました。

レクリエーションの授業の成果を生かした「レクリエーションで遊ぼう」のコーナーには、親子連れが多く来ていて、学生とともにベタボートや風船ゲーム、折り紙など、生き生きとレクリエーションを楽しんでいました。また、「バイオリズム・オブ・カリビアン」呪われた海賊たち」を上映した「シネマ・フォーラ

ム」も親子連れが多く、子供たちは目を輝かせて見入っていました。

写真サークル picture utilize は、メンバーそれぞれが腕をふるって撮影した個性あふれる作品をセンスよく展示していました。中庭に面した窓を向く机と椅子と投句箱が印象的な「俳句の部屋」には、過去三回の静福俳句大会入選句が、大学周辺の植物や動物の写真とともに展示されていました。

三・行列のできる模擬店

中庭の花壇の脇に陣取っていたのはフリーマーケット。主催者に話を聞こうと思いましたが、大忙し。聞きずらかったのですが、準備で苦労しながら、どの質問に「値札付け」と答えてくれました。



フリーマーケットは大忙し

女性客に値切られて対応に四苦八苦の場面もありました。

昼時ともなると、あちらこちらの模擬店に行列ができました。たこ焼き、お好み焼き、焼きそば、焼き鳥、フライドポテト、フランクフルト、ホットサンド、カレー、パスタなどの匂いが交じり合っていました。中には学生に混じって休みなくキャベツ焼きを作っている教員の姿もありました。

じゃがバター用のジャガイモをふかす

大きな鍋から上がる湯気は目を引きました。ふかしている間は誰もいないのですが、じゃがバターが出来上がるとすぐに列ができ、あっという間に売り切れてしまいました。出来上がりを見逃しちゃうと、なかなか



ただ今出来上がりです！
あつという間に売り切れてしまいました。出来上がりを見逃しちゃうと、なかなか

か食べられない一品でした。ホットケーキで作ったたこ焼きにチョコのソースがかかったたこホットや、作るのにちよつと時間がかかりますが、クレープも美味しいと好評でした。ほかにチョコバナナ、洋菓子、駄菓子、焼栗などなど、盛りだくさんで、いろいろな味を楽しんでいただけたいと思います。

四・熱気あふれる野外ステージ

グラウンドに設営された野外ステージは、ダンスサークルによる元気なステージで始まりました。まだ出来たばかりのサークルという軽音楽部の演奏は、「Tomorrow」が良かったとの声がかれました。誰もが知っている曲でしたが、自分たちで工夫を加えていたので新鮮な印象を与えたようです。

富士出身のロックバンド「スーパーサンダース」の演奏はノリのいいものが多く、観客のテンションは上がりっぱなしでした。曲と曲の間には冗談を言って楽しませてくれました。演奏後、ボーカルの方から「いろいろな反応があつて面白かった」との感想をいただきました。



ステージと客席が一体となつて

ツケンサンバ」とバラエティに富んでいました。学生も教職員も野外ステージを思いきり楽しんでいました。

野外ステージ最大のイベントともいえる「お笑いライブ」には、昨年を上回る人が集まりました。グラウンドにあれだけの人が集まるのは一年を通して、このときだけではないでしょうか。出演は「ムートン」「南海キャンディーズ」「ロバート」の方々でした。テレビでは絶対みられない静岡のネタも披露してくれました。「テレビで見ると面白かった」「セン



グラウンドは人、人、人...

午後からは、福祉心理学科一年の男子学生三人で結成されたケミカル BROTHERS のアコギ演奏が続いて、教職 in スペシャル。ピアノ演奏、熱唱、そして流行の「マ

のいいネタで大うけでした」など、絶賛の声が聞かれました。夕闇に包まれ、ステージにライトが点ると、いよいよ夕華祭の始まりです。寒くなってきましたが、実行委員はじめ参加者全員の熱気が寒さを吹き飛ばしてゆきます。午前中に行われたミス・ミスター静福コンテストの結果発表や一等が温泉つき一泊二日の伊豆ペア旅行というお楽しみ抽選会など、わくわくすることはかりでした。なお、伊藤梨菜さん（福祉心理学科二年）と加藤嗣也君（介護福祉学科一年）がミス・ミスター静福の栄冠に輝きました。

夕華祭の最後を飾るのは、パワーポイントを使って、スクリーンに次々と映し出される写真です。写真の一枚一枚に第二回静福祭の軌跡が刻まれています。参加者の歓声とともに写真が流れてゆき、素晴らしい演出に感激しました。夕華祭の灯が消えるとともに、第二回静福祭の幕を閉じました。

今、静福祭は来年に向けてスタートしています。今年の成果や反省のもとに、よりよい静福祭を目指して、第二回実行委員長から第三回実行委員長へと伝統を育みながらバトンをつなげていってほしいと思います。

- (学生特派員)
- 福祉情報学科二年 浦野準也・太田孝二郎・菓科良博
- 福祉心理学科二年 山元彩津美
- 福祉情報学科一年 岡村栄美
- (以下、写真サークル [PICTUTILIZE])
- 福祉心理学科二年 増田奏美・斉藤陽子・富田有紀子・北村飛鳥・鈴木康代・青嶋千紗・石埜久弥・大下あやみ・石川真有

学外活動

・静岡福祉大学として二年目を迎え、学生たちのクラブ活動や地域ボランティアにも一段と熱が入ってきました。学外活動は教職員にとつても、普段見られない学生たちの一面を、改めて見直す機会となります。地域で頑張る学生たちの様子をお知らせします。

・平成十七年十月十六日、東海大学清水校舎にて開催された第十二回静岡県私立短期大学体育大会に本学の学生が出場しました。本学の学生はバトミントンとバスケットボールに出場し、いずれも大健闘いたしました。バトミントンは、団体戦優勝、ダブルスも一位、二位、三位を独占！

バスケットは男女とも惜しくも負けてしまいました。白熱した試合となり、とてもいい汗をかきました。



バスケットは熱戦につぐ熱戦

・十一月十九日、金谷公民館「みんくる」(島田市)で、洗足学園音楽大学ユーフォニアム合奏団&静岡福祉大学ウインドオーケストラによるジョイント演奏会「ハーフトフルコンサート」がおこなわれました。主催は本学の山城厚生教授が理事長を務めるNPO法人「こころ」で、島田市教育委員会と島田市福祉協議会および洗足学園音楽大学同窓会が後援、本学が協力して実現したものです。「こころ」は昨年発足し、誰もが安心して生活できる地域社会をめざし、カウンセリングなどの実践を通じて地域貢献を果たしています。このコンサートも心のケアのひとつとして企画されました。

音楽を通じて、さまざまな人たちと触れ合い同じ時間を過ごすことができ、貴重なひと時となりました。



ことばを忘れるひととき

・十一月二十七日、浜松学院大学短期大学部において、私立短期大学体育大会のバレーボール試合が行われました。本学のバレーボールサークルのメンバーは七人の少数精鋭で参加し、並居る強豪チームと互角に渡り合いました。熱戦に継ぐ熱戦で、手に汗握る試合展開にみな熱く盛り上がりました。特に最後の試合では、終了のホイッスルが鳴るまでどちらが勝つか分からないドキドキハラハラの状況で、本学応援団もエキサイティング！

残念ながら試合には勝てなかったものの、皆で感動を共有した有意義な時間となりました。



いよいよ試合開始。ファイト！

・十二月十日(土)、焼津市豊田公民館にて、「みどり野ミニディサービス、クリスマス集い」が行われました。本学からは、学生二十四名、教職員三名が参加。最高年齢九十二歳という高齢者二十五名に加え、豊田小学校の児童十四名、

教員一名、そして地域ボランティア十三名の約八〇名による楽しい集いとなりました。また今回は、小学生の福祉体験学習をテーマとして、小学生と高齢者のコミュニケーションやふれあいと交流をはかりましたので、本学の学生にとつても貴重な体験となりました。



サンタクロースは誰でしょう？

・紙面の都合で全部を紹介することができませんが、焼津市で開かれた「オータムフェスタ in やいづ 2005」「健康まつり」「ふくしまつり」「焼津市港小学区のおかせスクール」「焼津市石津浜クリーン作戦」など、学生たちは多くの地域行事に参加し市民の皆さんと交流を深めています。

また、地域の子ども会や障害を持つ子どもたちのクリスマス会を支援しながら、自らも多くの学んでいるようです。静岡福祉大学の学生は、これからも地域を走り回ります。ご期待ください。

学科だより

社会福祉学部

福祉心理学科

心の相談センター開室中

昨年十月五日、静岡福祉大学「心の相談センター」がオープンし、早くも四月が経ちました。この相談センターは、福祉心理学科の教員が中心となって地域の方々へのメンタルヘルスに貢献するため、相談業務にあたっています。オープン以来、さまざまな悩みを抱える方々が相談室に足を運ばれています。



相談センターには、明るく落ち着いた雰囲気の間接室と、箱庭やさまざまなおもちゃが用意されたプレイルームが整備されています。面接室でじっくりと話すこと、プレイルームで遊ぶこと、そのような自己表現を通して、来談された方々は徐々に心の元気を回復してゆきます。

相談業務は月曜日から金曜日に行っておりますが、相談の申し込みは左記の間帯に受け付けています。

受付専用ダイヤル
054162318401

受付時間
火曜 10時～12時 金曜 10時～12時
水曜 10時～12時 13時～16時

なお、福祉心理学科の授業では、相談センターの見学を始め、実際の面接場面に触れる機会も予定しています。臨床現場が身近にあることで、学生は生きたカウンセリングの知識を学ぶことができま

福祉情報学科

先駆的な学科を目指して

少子・高齢化の流れの中で、福祉施策もまた措置から契約へという方向が打ち出されました。利用者がサービスを選択する時代、そして利用者に対し、情報を開示することが当たり前の時代となりました。その一方で、急激な変化を遂げつつある高度情報社会においては情報管理し、さらには保障し、発信するに際して、様々な課題が横たわっています。このような社会の大きな変化に対応した福祉のニーズに 대응するためには、「福祉情報」の分野における専門知識や専門技術の習得が欠かせません。

さて福祉情報学科の二年間の歩みを振り返ると、教員と学生の情熱によって試行錯誤を通じ、福祉情報学科ならではのノウハウを積み重ねてきたように思います。



ノートパソコンを使ったグループ研究

新しい分野といえる本学科の学生たち

は、授業はもちろん、ボランティア、学園祭など各種イベントにも積極的に参加し、幅広いフィールドで活躍しています。そうした成果として、本学科は地域の人々、福祉関係者などからも高い評価を受けつつあります。

来春には障害を持つ学生も共に学びます。そこで、サービスを利用する立場からの声や提案を受けとめ、障害者に優しい学習環境作りを目指したいと考えています。障害があるなしに関わらず、誰もが行動し参加する環境をぜひ福祉情報学科から発信しましょう。福祉情報学科の歴史は始まったばかりです。学生の皆さんと教職員が一丸となり、「福祉」はもちろん「情報」にも精通した先駆的な存在になりたいと考えています。

短期大学部

介護福祉学科

第二回 卒業生懇談会

十一月二十三日に本学教室で介護福祉学科の第二回卒業生懇談会が開かれました。当日は忙しいなか、勤務調整を行なうって、一期生九名、二期生二十三名が参加しました。卒業生は静岡県内をはじめ、山梨県からも集まり、同級生や先生方に久しぶりに会える事を楽しみにしていたようです。

懇談会では学長、学科長挨拶の後、学科の話、同窓会やキャリア支援の話があり、本学の最近の様子について、理解を深めました。

また、一期生と二期生に分かれたグループ懇談会では、先生方も加わり、一人一人が近況を報告するとともに、介護という仕事への熱い想いや悩みを短大時代

に戻ったかのように、お互いに語り合いました。終わりの方では、将来の夢や後輩へのメッセージなど、日頃、心に秘めていたいろいろな想いを聞くことができました。

卒業生懇談会を通じて、一期生は二年目に入り、介護福祉の現場で重責を担って活躍している様子が、二期生は卒業から八ヶ月余りが過ぎて、業務や職場環境にも慣れ、自分の目標を持って、頑張っている様子がよく伝わりました。成長した姿には頼もしさを感じられました。



卒業生を代表して、一期生門脇菜央さん（社会福祉法人榮寿会勤務）のコメントを紹介します。

「二年目に入り、フロア長を担当させて頂いております。介護職員のソフト決めや幹部会会議等の業務が増え、多くの仕事を学ぶ毎日です。自分への課題もありますが、介護の仕事にやり甲斐と誇りを持ち、利用者の方々の心に寄り添う介護を目指して、これからも一生懸命頑張りたいと思います。」

静福生、大活躍

去る一月八日(日)に行われた第三十四回焼津市駅伝競走大会に本学の学生が参加し、一般の部で第五位と大健闘いたしました。

抜けるような青空の下、焼津港、小川港、旧焼津港を結ぶコースにおいて小学生から一般の方まで約二四〇ものチームが参加し、熱い駅伝競走が繰り広げられました。本学学生は、望月圭二理事長、加藤一夫学長を始め、沢山の本学関係者の力強い声援の中、チームが一丸となつてたすきを繋ぎ見事一般の部五位に入賞いたしました。

今回参加した学生は駅伝競走が初めての者が殆どで、手探りの中での競走となりましたが、その分得るものは多かったようです。以下に駅伝参加者のコメント



を載せます。

佐野貴史選手：今回ほとんどのメンバーが駅伝に対して初めての試みでしたが、練習量の割には良い成績が出て良かったです。これからもっとトレーニングを重ねていき、さらに良い結果を出せるよう頑張ろうと思います。

後藤竜弥選手：「少しでも運動したい!!」という気持ちから、参加しました。走るのも余り得意ではないですが、友人と先生と練習していくなかで楽しかったです。充実感を得られたり、やってよかったと感じました。大会に出ることで仲間内だけでなく、地域の方々とも一緒になれる一体感もあり、少し溶け込めたような気がしたのも嬉しかったです。

神谷祥吾選手：駅伝だけではなく、このような競技大会にでることが初めてで、今までこんなに走ったことはありませんでした。大会までの練習を含めてとてもいい経験になりました。次の大会に向けてこれからも続けていきます。

内田誠幸選手：アンカーというところでその責任は大きかったのですが、前の皆が頑張ってくれたので気持ち良く区間を走りきることができ、とても良い経験ができたと思っています。

赤堀達也選手：僕は補欠だったけど選手と一緒にがんばれたと思います。即席のチームで、本番で良い結果が出てびっくりしました。全員での練習はあまりできず、本番ではタスキの受け渡しがうまくいかない場面があったけど、「終わりよければ全てよし」です。来年は正式なチームとして出場しもっと上位を目指したいです。

入試広報課からのお知らせ

二〇〇五年度の体験入学は四月二十五日を皮切りに十月九日まで合計九回実施しました。

ユニバーサルデザインのキャンパスグッズも好評で、昨年を上回る受験生が参加してくれました。入試が近づく九月からは「何でも相談コーナー」を新たに設け受験生の相談に応じました。教員や職員と気兼ねなく話ができることから、多くの人に利用していただきました。

また、清水西高・静岡大成高・藤枝北高・焼津高など直接本学を訪ね、模擬授業・施設見学などを通じ理解を深めていただきました。

なお、本年度最後の体験入学を二〇〇六年三月二十五日(土)に予定しています。学食でおいしい昼食付きです。高校生・保護者・社会人の方、どなたでもお気軽にご参加ください。



視覚障害と盲導犬の実習

短期大学部介護福祉学科二年生 卒業にむけて

平成十八年二月十五日(水)、全国にある約四百二十校の介護福祉士養成校の学生が、卒業時共通試験に取り組みます。二年間の学習の集大成です。全員卒業式を目指し猛勉強。念願の卒業式は三月十七日(金)です。

キャリア支援室

就職指導室からキャリア支援室に名称・業務内容も変わって九ヶ月。「あつ」という間に年末になってしまいました。短期大学部介護福祉学科二年生は今年度も先輩たちの達成した就職内定「一〇〇%」に到達(二月二十日)しました。そして、現在の一年生ガイダンスも例年同様、九月からスタートして、キャリア支援室も新たな賑わいになってきました。

四年制大学社会学部学生の二年生までの在籍ですが、就職に対する意識は高く(就職適性検査・一般教養テスト・外部講師による講演会)など各種のキャリアサポートへの出席も良く三年生進級後の就職活動が期待できます。また、短期大学部を卒業された皆さんの活躍ぶり、各施設において高い評価を頂いており、とても嬉しく思っています。

現在、キャリア支援室では来年度の学生支援に向けて、これまで行ってきた四年制大学・短期大学部共、各種ガイダンスの一部を正課授業として開講する予定です。社会学部学生の「国家試験」に向けての勉強も始まっており、卒業生の皆さんが在籍していた当時にも負けず現在の学生は休みも少なく、一生懸命の状態が続いています。

編集後記

学報も第四号になりました。号数ごとに発行部数も増えていきます。今回、紙面づくりに中心的に関わった教員は、榑木てる子、加藤あけみ、武藤裕子、中田薫、田崎裕美、前川有希子、太田晴康、齋藤剛、小田部雄次です。